

「品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2014」一部改定の概要

【ガイドラインの目的及び一部改定の経緯】

○ガイドラインの目的

品川駅・田町駅周辺の土地利用や基盤整備、景観・環境形成などについて、一体的、戦略的に公民協働のまちづくりを進めるための指針として策定。

○一部改定の背景と目的

東京都は「品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2014」を平成26年（2014年）年に策定し、戦略的にまちづくりを誘導してきた。

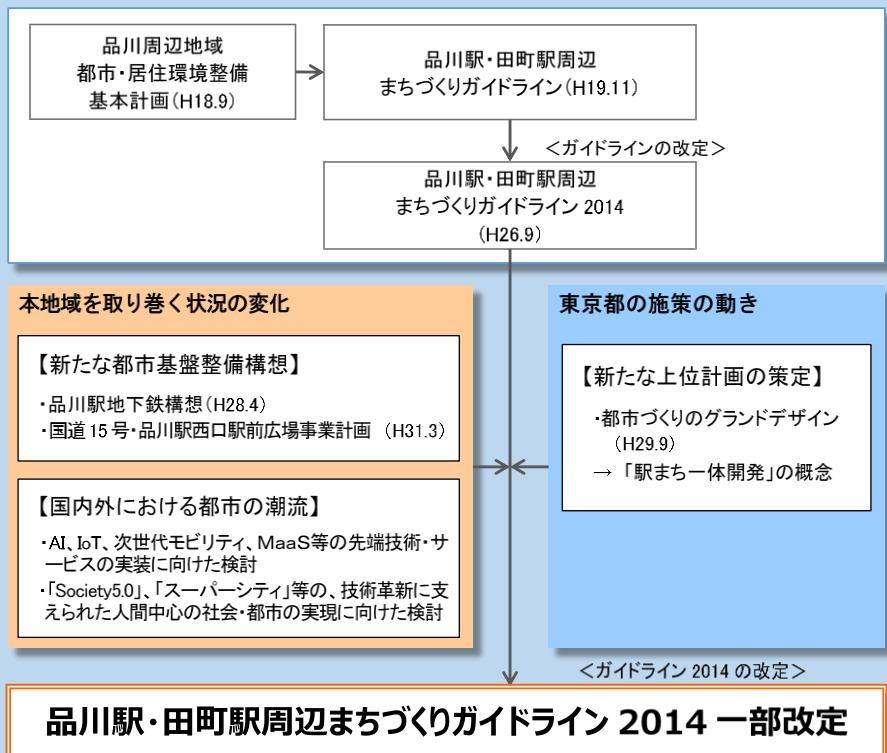
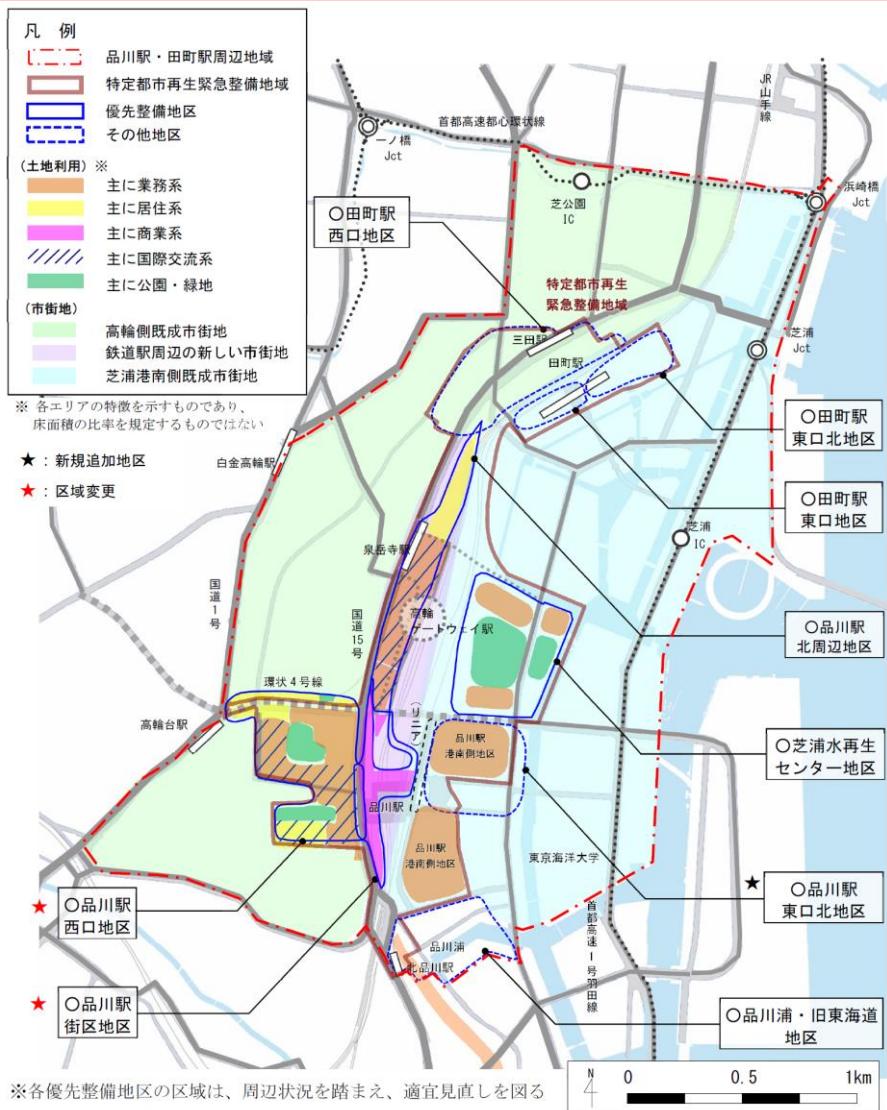
その後の東京都の施策の動きや本地域を取り巻く状況の変化、国内外における都市の潮流を踏まえ、ガイドライン2014の一部改定を行う。

【一部改定の主な内容】

○一部改定の主な内容

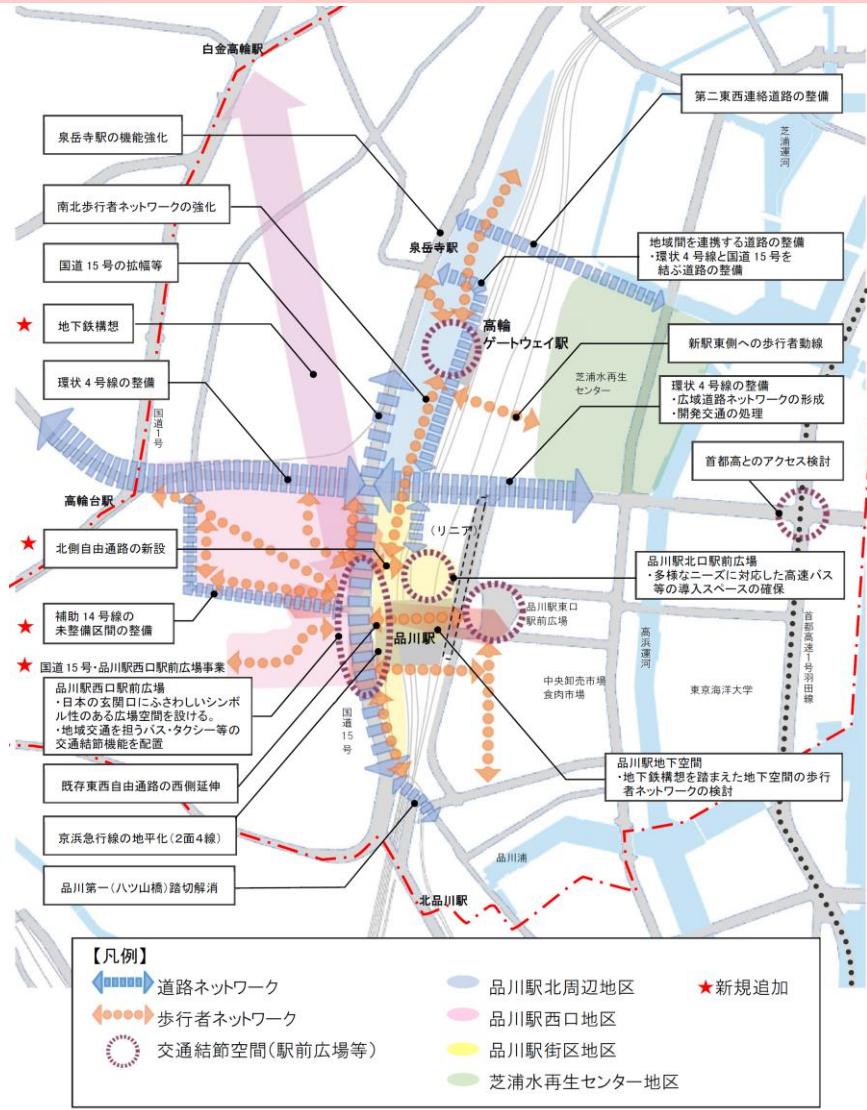
- ・ 国道15号・品川駅西口駅前広場整備事業等の位置づけ
- ・ 道路ネットワーク、歩行者ネットワークの充実強化
- ・ 地下鉄構想の追記
- ・ 環境配慮型都市開発の誘導方策の強化（現行の風の道の確保に加え、暑熱対策の追加）
- ・ 品川駅西口の顔づくりの追記（日本の玄関口に相応しいえきまち一体の景観形成）

○土地利用イメージ



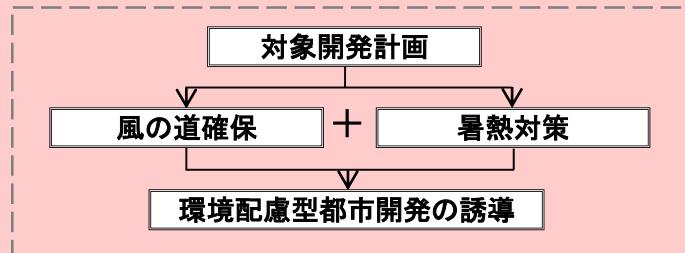
ガイドライン2014一部改定の経緯と背景

○都市基盤イメージ



○風の道確保等による環境配慮型都市開発の誘導

本地域では、環境資源である東京湾の海風をいかし、環境モデル都市を実現する。環境に配慮した都市開発を誘導するために、都市空間の風の道を確保することと合わせて、地表レベルでの暑熱対策を行う。右図の基本方針のもと、誘導を進める。



環境配慮型都市開発の誘導基本方針

○景観形成の誘導イメージ（えきまちデザインの追記）

拠点となる公共空間からの景観に加えて、拠点駅である品川駅ではえきまち一体の景観形成を目指し、西口、北口、東口が連携しながらそれぞれの個性に応じた顔づくりを行うことで、日本の玄関口としての象徴的な景観形成を目指す。